



だより

〒444-0802 岡崎市美合町字並松1-2
Tel: 0564-51-1601 Fax: 0564-51-4831
E-mail noudai@pref.aichi.lg.jp
ホームページ: <https://www.pref.aichi.jp/soshiki/noudai/>



果樹専攻

CONTENTS

- 1 専攻紹介 (果樹専攻)
- 2 各専攻トピックス
- 3 クラブ紹介 (バドミントン部、軽音楽部)
- 4 農起業支援ステーションの紹介
- 5 研修紹介 (農福連携支援研修)
- 6 トピックス
始業式
学生のボランティア等への参加
派遣実習の開始
パソコン農業簿記、農業機械研修
愛知農業次世代リーダー塾の開始
生産高度化研修 (養豚) の開催
- 7 お知らせ
令和5年度入学者選抜試験

愛知県立農業大学校
公式HP



SNS

Instagram



Twitter



専攻紹介

果樹専攻

果樹専攻は、「おいしい果物」につられた(?) 25人(2年生14人、1年生11人)の学生が、県内外から集まっています。

農大の最南端、黄色い鉄門とうっそうとした防風林の奥に4つの温室と7枚のほ場をもつ2.5haの果樹園があります。ブドウ、ナシ、モモ、カキ、ミカン、イチジク、ブルーベリー、アンズ、ウメなど品目ごとに2年生を中心に6つの班に分かれて栽培、収穫・出荷、販売実習を行っています。

販売は、市場流通や毎週水曜日の直売、西三河総合庁舎での販売の他、地元の洋菓子屋さんと連携してケーキ用の果実の提供も行っています。また、昨年から「岡崎かきごおり街道」の店舗へかき氷用の果実を提供しています。

果樹のオフシーズンである冬場は、収穫しておいた果実を使ったジャム作りにも取り組んでおり、農大祭などで販売して大変好評です。

ナシ



40aのナシ園で10種類以上の品種を栽培しています。食べ比べて自分の「推し品種」を見つけてね

(栽培品種)
愛甘水、幸水、豊水、あきづき、歎月など

試食して収穫期を見極めてます



ブドウ

加温ハウス、無加温ハウス、露地の3つの作型で栽培しています。シャインマスカットの面積を増やそうと奮闘中です

(栽培品種)
巨峰、シャインマスカット、ゴルビーなど



夏休みはひたすら収穫



ハウスミカン



今年から天敵を導入し、防除を簡素化。袋詰め放題の販売が好評でした♪

(栽培品種)
宮川早生

夏場の温度管理に気を使います



イチジク

完熟イチジクの販売が美味しいと好評。
ケーキ屋さんにも毎週提供
しています♪

(栽培品種)
榊井ドーフィン、
パナーネ



収穫の時期が
一番楽しいです



モモ



担当者の腕が良いのか、樹
が利口になったのか、
近年、食味が急上昇。

(栽培品種)
ちよひめ、日川白鳳、
あかつき など

色々な袋を試し
てみよう



ブルーベリー

今年から育苗ほを整備。
たくさんの品種を組み合わ
せ安定供給に应运えます。

(栽培品種)
ラビットアイ系、
サザンハイブッシュ系
各種



病害虫を
こまめに観察



ジベレリン処理



カキの芽かき



枝の誘引



ジャム作り



モモ園の視察
(校外学習)



お品書きボードは
毎回お手製♪



収穫に向けて出発!



ぶどうコンテスト
に出品

専攻トピックス

最近の各専攻で話題になったことや実習風景などをお届けします！



スマート農機 直進アシストトラクターでスマート農業を学ぶ

ヤンマーアグリジャパンの方を招き、直進アシストトラクターの講義と試乗体験をしました。講義では直進アシストトラクターの仕組みや、衛星を利用した位置測定の方法による精度の違いについて説明をいただきました。試乗体験では学生たちに実際に畝立てを行ってもらい、誤差数センチの範囲で真っすぐうねが立っていく様子を体験しました。今までは畝立てをするときは細心の注意を払いながら操作をしていましたが、ハンドル操縦なしで真っすぐな畝が立つことに驚いている様子でした。



すべてのハウスの定植が終わりました！

施設野菜専攻では、8～9月に定植を行う促成長期栽培を主体としており、夏休み中に1年生を中心に育苗、接ぎ木、土壌消毒、畝たてなどの定植準備を行ってきました。今年は1年生の頑張りもあり、育苗作業が順調に進み、例年より2週間～1ヶ月早く9つのハウスの定植が終了しました。11月頃から本格的に出荷が始まります。今年は初めて「チンゲンサイ」の栽培にも挑戦します。是非ご期待ください。



新米「コシヒカリ」「ミルキーQueen」が見事“一等米”に！

8月に収穫した「コシヒカリ」「ミルキーQueen」の品質検査をJA あいち三河で実施しました。今年は、高温障害の白未熟粒が多い年ですが、農大のお米は透明感があり、今年検査した中でトップクラスにキレイだと評価されました。結果は両品種とも見事“一等米”！おいしさは保証します。是非、水曜日の直売でお買い求めください！





2学期のスタートダッシュ！



夏休みが終わり、フルメンバーでの専攻実習が再開しました。毎年この時期は収穫を終えた圃場の片付けや次作の定植などの作業が集中するため、休み中に養った英気の使いどころがいきなりやってきます。キクの温室では、お盆向けに栽培していた夏秋ギクを片付け、農大祭や年末向けの秋ギクにチェンジ。洋花の温室ではヒマワリを片付けて新たにスターチスとユリを定植。そして1年生は息をつく間もなく派遣実習に突入、その間2年生は少数精鋭で圃場を管理しなければなりません。みんな頑張れ…!!



素敵なインテリアが出来ました！



お花や観葉植物を使った、素敵なインテリアの作り方を学べる農産加工演習。今月は「ビカクシダの板付」です。これまでハンギングバスケットやコケ玉、ハイドロカルチャーを学んだ学生たち。板にシダをくっつけるなんて難しい課題も順調にこなし、出来上がりもばっちり！これまで作った作品のなかでも、最も男前なインテリアが出来上がりました。一部は農大祭でも販売する予定ですので、ぜひぜひお買い求めください。かっこいいですよ～。



北海道はでっかいどー！



9/7-9に北海道帯広市に2年生が校外学習に行ってきました。一時は台風の影響で飛行機が飛ばないかもしれないとハラハラしましたが無事向かうことができました。

北海道ならではの広大な土地で、牛の放牧場やTMRセンターなどを見学させていただき、とても新鮮な学びができました。

これを機に新たな目覚めが起きた学生もいたようです。今の若いうちにぜひ世界を広げてほしいと思います。



ヒナから成鶏へ



夏休みが終わり、1年生の派遣実習が始まりました。農業大学校での経験を踏まえ、一般の農家さんのところで研修をします。農業大学校とは施設も異なり、人間関係も1からのスタートになります。戸惑うことが多いと思いますが貴重な1か月、たくさんの経験を持って帰ってきてほしいです。

一方、1年生と同時にやってきたヒナたちは鶏舎の移動も終わり、卵を産み始めています。まだ産み始めは形や大きさが安定しておらず、販売には出せません。ちょうど1年生が派遣実習から返ってくる頃には安定してくると思います。1年生も鶏も今後の活躍に期待したいと思います。

学生クラブ紹介

バドミントン部



部員数 18名
(男子10名 女子8名)

活動日時 火曜日 18:00～

活動場所 体育館



バドミントン部は初心者も経験者も励まし合って楽しく活動しています。コート数は3面だけなので、所属する部員は譲りあって活動しています。シャトルを打ち込んで爽快な気分を皆で共有しています。

(部長 藤松 稜也)

軽音楽部



部員数 8名
(男子6名 女子2名)

活動日時 月～金曜日 17:00～

活動場所 教室棟中教室



皆さんは音楽が好きですか。農大軽音楽部は初心者大歓迎です。実は部長の私も農大に入るまで楽器演奏の経験がなく、譜面も読めませんでした。それでも先輩が優しく教えてくれたことで、音楽を楽しむ居場所と仲間にあうことができました。

(部長 藤原 久遠)

特集



あなたの 就農を 応援します 愛知県農起業 支援ステーション

令和3年度に農業大学校内に県内全域の就農相談窓口として「愛知県農起業支援ステーション」を設置しました。

農業大学校では、農業後継者、新たに就農を希望する学生・研修生の育成に加え、就農者確保に向けた相談機能も果たすことにより、愛知県農業の担い手の確保と育成を総合的に支援しています。

今回は、設置から一年経過した愛知県農起業支援ステーション（以下、ステーション）の活動を紹介します。

愛知県農起業ステーションの活動

○就農相談の流れ

↓まずは就農説明会↓

ステーションでは、「農業を始めた」、「就農について教えてほしい」などの問い合わせに対して、まずは就農説明会に参加してもらいます。就農説明会では就農するまでの基本的な流れと、品目の決定や農地の確保など就農に必要な

な要件や支援制度などを説明します。「農業をやってみたい」、「農業に関心がある」という人でも、その多くは就農に関する知識が不足しているのが現状です。そこで、就農を考える上で、最低限必要な知識を説明会で得てから、就農相談に進みます。

就農説明会は1時間程度で月に2回開催しており、基本的にリモートで実施しています。説明会に加えて、「農業見学会」、「J A等産地の研修受入体制」、「先輩



リモートと対面併用の説明会

農家の講話」を実施する回もあり、9月までで各1回開催しています。

「産地の研修受入体制」では、イチゴ3産地、イチジク1産地、ナス1産地の農協職員から研修制度や受入体制について説明をいただきました。就農予定地で研修ができ、農地の幹旋や就農後のサポートもあることで、就農地や品目が決まっていない参加者には魅力的な内容でした。

「先輩農家の講話」では、レンコンの新規参入とイチゴの新規参入のお二人からの講話でした。軌道にのるまでの苦労や周囲に溶け込むための心構えなど、新規参入のつらさを赤裸々に語っていただきました。安易な気持ちで就農を考えてはいけないことが参加者にもよく伝わりました。

この2回はリモートと対面の両方で開催したので参加者が多く、質疑応答も活発でした。十月以降も同様の内容を企画しており、一般の参加者の他、農大の学生や研修生の参加も募ります。



先輩農家の講話

就農説明会の申込はインターネットで受け付けています。農大のホームページや「愛知県で農業を始めたい人へ」で検索、あるいは市町村や農協、農業改良普及課に設置したチラシの二次元バーコードからでも申し込みフォームに入れます。

「いよいよ就農相談へ」就農説明会の後、就農相談を受け付けます。リモートでも対面

でも対応しています。事前に就農相談カードを提出してもらい、現在の状況や本人の希望を聞きながら相談を進めます。就農するためにどこから手をつけていくかは人それぞれなので、セッションでは相談者に合わせて回答をしていきます。

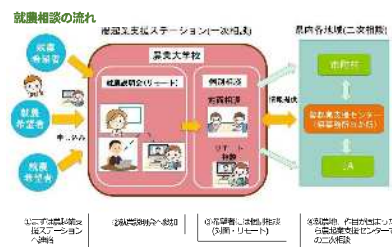
相談を通して、農地のめどがつき、品目や就農地が決まった段階で、各地の農起業支援センター（県農林水産事務所農業改良普及課）に相談をバトンタッチします。バトンタッチの後も、予定どおり就農できるよう、農起業支援センターや市町村、農協とその後進展を情報共有し、必要に応じてス

ステーションでの就農相談状況

セッションからアドバイスをします。4月から8月末までの相談者は百十二人となりました。三十代、四十代が約7割を占めます。農業経験の無い人が5割、農地のない人は6割になります。技術習得

愛知県で農業を始めたい方へ
「農起業支援ステーション」
にご相談ください。

愛知県立農業大学校内に設置された農起業支援ステーションでは、農業を始めたい方に就農に関する情報提供をします。



「農業をはじめたい」とお考えの方は、まず就農説明会にご参加ください。説明会の詳細は「愛知県で農業を始めたい人へ」もしくは二次元コードで検索してください。

お問い合わせ先
電話 0564-51-1034
Eメール noudai@pref.aichi.jp
と ころ T444 0802
愛知県豊田県豊田1-7-1（愛知県農業大学校 内）

リニューアルしたチラシ

と農地の確保のためには研修が不可欠ですが、まずは向き不向きを知ることでも大切です。そこで、気軽に農業体験ができる短期間短時間バイトを勧めています。農家の求人さえあれば、いろいろな農作業を体験でき、うまくいけば研修先としても期待できます。まだまだ、農家からの求人は少ないですが、気軽に体験できるツールとして注目しています。

十月以降の就農説明会は3月まで十二回計画されています。後半の説明会でも、「産地の研修体制の紹介」、「先輩農家の講話」、「農業見学」を企画しています。さらに有機農業に関心のある相談者が多いことから「有機農業の事例」も取り上げます。引き続き、より多くの就農希望者が愛知県で円滑に就農できるように農起業支援ステーションの就農相談体制を充実させ、担い手の確保に取り組んでいきます。

今後の予定

研修紹介

農 福 連 携 支 援 研 修

農福連携支援研修は、障害者就労施設職員の皆さんが野菜栽培の基礎知識を学び、施設の利用者に作業をわかりやすく伝えるとともに、施設の畑で野菜などを栽培できるようになることを目指した研修です。

令和2年度に始まり、3年目になりました。今年の研修は6月15日に開講し、翌年1月20日までの8か月の間に27日行っていきます。



当研修では、実習と講義に加え、先進的に農福連携に取り組む施設の視察もします。

実習では、野菜栽培ほ場においてキュウリ、ピーマン、ナス、メロン、スイカなどの春夏野菜やハクサイ、ダイコン、ニンジン、チンゲンサイなどの秋冬野菜の農作業を体験します。研修生は播種、間引き、追肥、整枝、誘引などの栽培管理や収穫、調整から片づけまで一連の栽培管理を行います。春夏野菜は収穫を終えて、片付けと秋冬野菜の準備に入りました。

講義では、野菜作りに関する基礎知識（肥料、病害虫、土づくり、雑草防除）だけでなく、わかりやすく教える工夫、アグリジョブコーチ概論など農福連携に関することも学んでいます。

変わったところでは、施設の畑の土を各自持ち寄り、土壌分析もやります。

研修生の皆さんは普段の仕事をこなしながらこの長期研修を受講されており、大変なことと思いますが、頑張っています。



研修生の皆さんからの言葉（一部抜粋）

愛知県のホームページを見て申し込みました。実習が多いので、理解が深まります。講義は初めて聞くことばかりで参考になります。実際に自分が作業するときにスムーズにできそうに感じています。

農業には体力が必要なことを実感しています。農薬の使い方や野菜の仕立て方はとても参考になりました。ハーブやトウモロコシ、ミニトマトやキュウリをつくりたいです。

知人に教えられてやってみようと思いました。農業は全くの未経験ですが、休憩もしっかりと入れていただいていますし、初心者にも丁寧に教えてくださって、良い研修だなと思いました。

事業所で農業を行っていて担当しています。講義では講師の先生にテーマごとに質問ができるので参考になります。農業は、夏場は暑く大変ですが、実際の現場では待たなしです。体力と要領が大切と感じています。研修の作業ペースは大変良いと思います。

農業経験においては、まったく初めての人もいれば既に施設で取り組んでいる人までいろいろですが、皆さん和気あいあいと、楽しく前向きに研修に取り組んでいます。熱心に真剣に取り組む一方で、積極的にコミュニケーションをとって人脈づくりにも励み、研修で得ることは多いようです。



トピックス

始業式が行われました

9月1日（木）、大講義室に全学生が集合して始業式を迎えることができました。夏休みには、本校のオープンキャンパスに多くの学生が参加して、農大の受験を考えている高校生にPRをしてくれました。

鷹羽校長の講話では、入学後の1年生は人への思いやりや協調性など、大きく成長している姿が窺える。派遣実習では実際の農業を学ぶ大変貴重な経験となること、農家とのコミュニケーションを大切にすることを話されました。

2年生には、残りの学生生活に悔いを残さぬよう努力すること、特に4割の学生が進路未定であるため、進路説明会等に積極的に参加して進路先を決められるようにと激励されました。



「ミライの農業を作る学生向け研修」に参加

7月30～31日に東京都中央区で開催された「ミライの農業を作る学生向け研修」に本校から施設野菜専攻1年の山田鳳斗君が参加しました。

コロナ禍で全国からの学生が集まったの研修会の開催が自粛されていましたが、この研修は久しぶりのリアルな集合研修とオンライン研修の同時配信で、スマート農業や、6次産業化、労働環境整備、環境配慮型農業などについて学びました。



参加者との記念撮影

ボランティアに参加しました

8月11～15日に豊田市のオイスカ中部日本研修センターで行われた「愛知こども自然体験キャンプ」のボランティアリーダーとして露地野菜専攻1年の鈴木月那さんと小瀬木羽夢さんが参加しました。

キャンプでは、子供達にキャンプファイヤーや屋外炊事（竹筒炊飯やカレー作り）などの指導を行いました。

二人は、「ボランティアとしていろいろ体験できたので、これからは機会があればボランティアをしたい。」と話していました。



「派遣実習」が始まりました！

本校農学科1年生において、重要なカリキュラムである「派遣実習」が9月13日(火)に始まり、県内各農業改良普及課(駐在室を含む)で開始式が行われました。1年生71名が70件(うち県内67件)の受入農家で実習を開始します。派遣実習は、より実践的な技術や経営方法、農家生活を先進農家等で体験し、実際の農業を肌で感じ取るものです。新型コロナウイルスへの感染防止対策もきちんとしていながら、自らの持てる力を総動員して、勉強や技術習得に頑張ってくれることを期待しています。



派遣実習の開始式

パソコン農業簿記入門(経営管理研修)を実施

8月26日(金)に経営管理研修「パソコン農業簿記入門」を開催し、21名の参加がありました。研修は、樋田久氏を講師に、農業経営に必要な農業簿記の基礎知識とパソコンを活用した農業簿記ソフト(ソリマチ)の利用法について学びました。まず、初めに、青色申告の概要について説明とその手続き方法を学びました。

次に、パソコン簿記の概要説明を受け、初期設定を各自入力しました。特に、経営形態では複数の形があるため、考えながらの入力が求められました。その後、メインとなる仕訳入力を行いました。事例として、農業経営上の取引を提示されて、資産、負債の項目を選択し、仕訳項目を設定しました。参加者は、説明をしっかりと確認しながら少しずつ進めていき、出題が進むにつれ、スムーズな入力ができるようになりました。

最後に、講師から、「農業経営は診断が最も重要である。パソコン簿記を活用しながら、その結果をしっかりと考察していくことが、優れた農業経営をすることになる。頑張ってください。」との話がありました。

研修後のアンケート結果においても、「今後の経営の指針にしたい。」「是非、パソコン簿記を活用したい。」などの回答が多く、有意義な研修会となりました。



大特免許研修・けん引免許研修と技能試験を実施

大型特殊自動車免許(農耕車限定)の取得を目的とした「大特免許研修」(第2回)、けん引免許(農耕車限定)の取得を目的とした「けん引免許研修」(第1回)を実施し、その技能試験が8月30日に行われました。

技能試験は、免許研修で練習を重ねた農大の運転コースが使用され、愛知県警察本部運転免許試験場の試験官による出張試験として実施されているもので、本校農業機械研修の大きな特長の一つとなっています。

この技能試験で、研修生と大特免許の資格取得講座を受講する本校学生をあわせて、大特免許24名、けん引免許11名が新たに免許を取得しました。



令和4年度「愛知農業次世代リーダー塾」始まる

8月31日（水）、愛知農業次世代リーダー塾の開講式を開催しました。本年度の受講者は、20歳代から50歳代の13名で、男性12名、女性1名です。

本年度の講座構成においては、マーケティング及び産地活動活性化のための講座をより強化しました。2月までの半年間で、12回の講座を開催していきます。

開講式の後、早速、第1回目の講座があり、経営計画作成を指導する東海経営支援センターの深谷定弘氏より「これからの農業経営」と題して講話があり、受講生は熱心に聴講し、積極的に質問していました。



生産高度化研修(養豚)の開催

9月2日（金）、西三河総合庁舎で生産高度化研修（養豚）を、農業総合試験場の養豚に関する実用化技術研究会との共催で実施しました。テーマは「豚熱から再開した系統豚造成の現状と今後の展開について」で、養豚農家及び関係機関から47名の参加がありました。

この研修会では、豚熱発生後の県の取組として、農業総合試験場の育種、畜産総合センターの豚舎整備状況及び系統豚供給状況、行政から野生イノシシの豚熱対策と、多岐に渡る講演がありました。

研修会後の参加者アンケートでは、回答者の全員が「大変参考になった」又は「参考になった」を回答しており、満足度の高い研修会とすることができました。



お知らせ

愛知県立農業大学校 令和5年度 入学者選抜試験

●一般推薦入学試験

出願期間 9月28日(水)～10月14日(金)
試験日 10月31日(月)
合格発表 11月11日(金)
試験科目 小論文(800字以内)、面接試験
募集人員：定員100名のうち2/3程度

●一般入学一次試験

出願期間 11月10日(木)～11月25日(金)
試験日 12月9日(金)
合格発表 12月20日(火)
試験科目 数学Ⅰ、小論文(800字以内)、面接試験
募集人員 定員100名の内、推薦入学合格者を除く数



※ 詳細は、本校ホームページを御覧ください